

夏休み前の全校集会

金鷄祭が終わり、夏休み目前となりました。3年生にとっては高校生活の一つの大きなまとめの時期を迎えています。先日、本校硬式野球班は、松本市野球場で都市大塩尻高校と大熱戦を繰り広げました。結果は皆さんご存じのことと思いますが、本校選手の立派な戦いぶりは、多くの人々の感動と共感を呼びました。班員諸君の健闘を称えたいと思います。

硬式野球班ばかりでなく、金鷄祭や班活動の大会など、皆さんそれぞれに一つにかけた熱い思いがあるでしょう。長野高校で学んだ日々を振り返りつつ、今こそフレッシュにスタートを切ってください。そのようなメリハリのある集中力が良い結果をもたらします。

今日は、私はゲームのことではなく、試合後の球場のことをお話ししたいと思っています。皆さんは野球の応援に行ったことはありますか。野球場は今、どこもきれいです。松本市野球場は本校の校舎より少し前に建てられた施設ですが、地方の小さな球場に行っても、試合後にゴミが観客席に残っていることはほとんどありません。私は30年以上前に高校野球の役員をしていたから知っています。当時は1日の試合が終われば、弁当箱が残されていたり、新聞紙が散乱していたり、たばこの吸い殻や空き缶が至るところに落ちていました。

日本は公共施設が清潔だということが現在、世界的に高く評価されますが、かつてはそうではありませんでした。海や川は汚かった。電車の中も、駅も、公園も、道路も、ゴミがたくさん落ちていて、落書きもたくさんあった。日本人はマナーを向上させ、生まれ変わったと言っていいかもしれません。

しかし、このように見違えるように良くなった一面もあれば、今の社会にはかつては問題ではなかった、憂慮すべきことがたくさんあります。

こんなに日本が少子化で困るとは思っていなかった。なぜ老人をおとしいれるような卑劣な詐欺が横行するのだろう。日本の財政赤字は将来の世代にどんなつけを残していくのか。こんなに夏が暑くなる前に、私たちは何かできなかったのか。

「昭和万葉集」という昭和時代に詠まれた短歌を集めた歌集がありますが、その中に、ある戦争未亡人が詠んだこんな歌があります。

「 （ 引用 ） 」

これほどに醜い国になってしまうのなら、戦争で死んでしまった大切な人の命が惜しまれるという意味だと思います。この、戦争で夫を失った女性が、どんな状況を指して「かくまでに醜き」と言ったのかはわかりませんが、私にもこの歌の作者と同じような嘆きがあります。

それは、このような世界、社会をつくってしまい、それを次の世代に引き継がねばならない、我々の多くが共有している、悔恨の念です。

今日の日曜日は参議院議員選挙の投票日です。3年生の4分の1は有権者になったと思います。有権者の皆さんは、時間があれば是非、投票に行ってください。長野高校の生徒諸君は、政治にも高い関心をもって、将来にわたり、持続的で多様性に満ちた、真の意味で豊かな日本と世界の建設に取り組んでください。

今日はちょうど国政選挙の直前ということでしたので、普段から若い世代の皆さんにお話ししたいと思っていたことを述べました。最後に皆さんの夏休みが実り多いものになることを期待して、私のお話とします。